

会 議 録

1 会議名

第3回浦川原区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告（公開）

（1）会長報告

（2）委員報告

（3）市からの報告

- ・中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について

○協議（公開）

（1）令和4年度活動計画について

（2）自主的審議事項の検討について

○その他（公開）

- ・出張なんでも懇談会の開催について

3 開催日時

令和4年6月28日（火）午後6時30分から7時45分まで

4 開催場所

浦川原コミュニティプラザ 市民活動室4・5

5 傍聴人の数

なし

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委 員：赤川義男、池田幸博副会長、小野正広、春日清美、北澤誠、北澤正彦、五井野利一、杉田和久、藤田宏禎会長、宮川勇、村松進副会長
- ・事務局：浦川原区総合事務所佐藤所長、大橋次長、竹田次長、産業グループ山本グループ長、滝澤主幹、建設グループ大島グループ長、市民生活・福祉グループ石川グループ長、春日上席保健師長、教育・文化グループ山崎グループ長、総務・地域振興グループ北澤班長、西條主任

8 発言の内容

【藤田会長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・出席者は11人。欠席者は相澤委員。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上が出席しているので、会議が成立する旨を報告。
- ・会議録の確認：春日委員に依頼。

【藤田会長】

それでは、「2 報告」に入る。「(1) 会長報告」であるが、今回は持ち合わせていない。

続いて、「(2) 委員報告」について、皆さんから何か報告事項はあるか。

(会場内から「なし」の声)

続いて、「(3) 市からの報告」として、「中山間地域農業の維持・振興に向けたワークショップの開催状況と今後の展開について」、説明をお願いします。

【竹田次長】

現在、中山間地域では、生産状況が不利であるという特有の課題に加え、高齢化や過疎化の進行による担い手不足などの課題を抱えている。

このような状況の中、今後の中山間地域農業の維持に向けて、ありたい姿や将来の方向性をみんなで共有することを目的として、昨年度から7つの地域自治区で、幅広い世代の方々から参加いただき、ワークショップ形式による話し合いをしている。また、浦川原区、柿崎区、中郷区、清里区では、ワークショップ形式とは違う手法により、中山間地域の将来を見据えた話し合いを実施している。

浦川原区では、新潟県と連携し、明治大学主導によるフューチャーデザインワークショップという方式で行っている。地域の主な産業である農業に関するものであり、本日は情報提供ということで、昨年度の7つの地域自治区と浦川原区における開催状況と今後の展開について報告させていただく。

【産業グループ山本グループ長】

(資料1に沿って説明)

【藤田会長】

今ほどの説明について、意見や質問があればお願いします。

【村松副会長】

私の集落は菱田で、参加した集落代表の方にお話を伺うと、「未来像について、何をやっていけばよいのか分からない」と言われていた。

農業を辞めてしまう人が多く、今後、更に辞めていく人が増えると思われる。これは国や県の政策だと思うが、そういったことへの対策として、この政策が行われているのか、お聞きしたい。

また、集落において、「草刈りをしてほしい」とお願いしたところ、「中山間地域直接支払の集落協定や多面的機能支払交付金からお金が出ているので、それを使ってほしい」という返事が返ってきた。しかし、作業が間に合っていないように見受けられる。個人で農業をやっていた時は、そのようなことはなかったと思う。集落協定と多面的の合計で、120万円～130万円ほどしか入ってこない。この金額ではとてもできない状況である。そういった部分も考えていていただきたい。

今の浦川原区の農業をどうやって守っていくのか、まずはそこを考えなければならないのではではないか。現在、肥料や農薬が非常に値上がりしている。農業を続けていくためには、そういったところも加味して考えていただきたい。

将来のビジョンと言われても、実際に描いたとおりになるかといえば、そうはならないのではないかと感じている。それよりも、実践的にできることを国や県などの行政、大学の先生などから指導していただいた方が良いと思う。

【産業グループ山本グループ長】

フューチャーデザインワークショップは、現在の利害関係から将来的な問題を解決してこうという手法であり、実際は、なかなか難しい部分もある。今現在の課題に対する意見が多く出されているように感じているが、これらについても、明治大学の先生の指導を受けて改善されていくものと思っている。

この未来農業づくり会議の目的としては、先ほど村松副会長が言われたように、中山間地域の維持に向けて将来の方向性を共有することが一番の目的であり、ご指摘のとおり、中山間地域を守っていくため、継続した話合いとして進めていきたいと考えている。

【藤田会長】

私からお聞きしたい。4ページの「活動のエンジンとなる組織」を作るというのは、農業従事者以外で、新たな組織を構築するということなのか。また、11ページに「品種改良」と記載があるが、具体的にどういったことを狙っているのか、教えていただきたい。

【産業グループ山本グループ長】

活動のエンジンとなる組織については、今後の話合いで決まっていくことになる。

一つ一つの取組について、どういった組織が、それを担っていくのかを詰めていく中で、新たな組織を立ち上げる必要があるのか、実際に立ち上げることができるのかといった部分も含めて議論していくことになると思われる。

品種改良については、この会議に出席された方の意見を抽出して記載しているところであり、具体的なところはお聞きしていないので分からないが、おそらく、品種改良することで、反収を上げるという意味ではないかと考える。

【藤田会長】

主要農作物種子法が廃案になり、大手の薬品メーカーなどが作った稲、苗、種子が使われるようになった。確かに農薬の使用量は少なくなり、収穫量も多くなるという内容ではあるが、そういったことを言われているようであれば、少し問題があるのではないかと思う。

皆さんも農業をされていればご承知だと思うが、T P Pの問題等もあり、外国からの農薬にまみれたものを種子法等で全て解禁にしてしまうというような、日本が直面している課題について、どう捉えているのか。その辺も考えていく必要があるのではないかと思っている。ただ、単純に地元のかぼちゃを品種改良していくという内容のものとは、違う意味合いなのではないかと思っている。

【佐藤所長】

私は前任が農政課であったので、品種改良についてお話しさせていただく。コシヒカリは高温に弱く、現在、新潟大学で新たに高温に強いコシヒカリを開発していて、その実験ほ場として、市内でもいくつか取り組まれているというお話をお聞きしている。そういった、いわゆる暑さに強い品種の開発が続いているということが一つ。また、国ではSDGsの取組に関連して、どちらかというところ、農薬を使わない農業を進めていこうという方向に動いている。これは30年という長いスパンで、農薬削減に向けて取り組んでいる状況である。

【藤田会長】

了解した。ただ、具体的に進める際には、いろいろなことをチェックしていく必要があると感じている。例えば、「全国的に、某薬品会社製の苗を、農協等を通さずに全て買い取った後に、必要なくなったから、この苗を自由にして良い」という内容の話があったことを農業団体の方々からお聞きしている。また、「すじまき用の種を確保させないようにして、大手の薬品メーカーが、毎年苗を供給していくということを繰り返している」という話もお聞きしている。そういったことについてもご承知おきいただきたい。

麦についても、日本の自給率は10パーセントほどしかなく、90パーセントを輸入に頼っている。そういった状況を農業者としてどのようにしていくかという部分において、同じ農法で取り組んでいってしまうと、農薬被害の問題等も出てくるのではないかと憂慮している。例えば、農薬等によってもたらされる人的被害について、即効性のある被害ではなく、10年後、15年後に現れるような被害が出てくると言われている中で、そういった部分も含めて、お任せの農業という形ではなく、自主的な農業政策に取り組んでいただきたいと思っている。よろしく願います。

【村松副会長】

資料の11ページの「アレルギーのない米」は、北海道などで作付けされていて、反収は少ないようであるが、私たちのところでも、雑穀米として米粉用に作っているものがある。通常作る米と違って、普通に食べてもおいしくないが、米粉にすればおいしく食べられるものである。こういったお米もあることをご承知いただきたい。

また、毎年、私たちの集落では野菜苗を購入して植えているが、ある1軒の家では、私たちが購入した所とは別の所から苗を買って植えられた。他の家の苗は虫が付いてしまったが、この家の苗は一切虫が付かなかった。おそらく薬剤処理がしてある苗だと思われる。その家の方も知らずに購入したようであるが、それだけ苗が薬漬けであるということである。

J AのコシヒカリBLも「いもち病」にかからないように少し品種改良したため、来年から「すじ」が変わるとのお知らせも来ていて、どういった食味になるのか、非常に気になるところである。

【藤田会長】

佐藤所長から何かコメントがあればお聞きする。

【佐藤所長】

品種改良については、いろいろなところで取り組まれていて、コシヒカリ以外でも品種が多くなってきている。また、コシヒカリだけではなく、業務用米に適した品種や飼料用米も作るなど、複合経営で米生産を実施していこうという流れになってきている。

今は米の値段も安くなってきていて、市や国・県では、できれば野菜との複合経営や、スマート農業により労力をかけないような取組をしていくなど、工夫をしていこうという呼び掛けをしているところである。

また、先ほど申し上げたとおり、国では今まで以上に農薬を使用しない政策に力を入れていて、具体的にどうしていくかについて議論をしているところだと思うが、本当に実現可能なのかというくらい高い目標を掲げているところである。今ほどいただいた意見については、

国としても気にしているところであると思っている。

今、農薬等の価格も非常に高くなってきており、そういったものに頼らない、地力に頼りながら米作りを進めていけるような取組をどうしていくかということをお我々も考えていかなければならないと感じている。

【藤田会長】

この場で議論することではないが、スーパーマーケットに出ているキャベツや白菜など、虫食いの穴が1つも空いていない理由を考えなければならない時代なのではないかと思っている。そういった部分についてもご指導をお願いします。

他に意見がなければ、続いて、「地域活動支援事業の進捗状況について」、事務局から説明いただく。

【総務・地域振興グループ西條主任】

地域活動支援事業の進捗状況について、口頭で説明させていただく。

前回の地域協議会において、今年度提案のあった6件を皆さんから審査いただき、6事業全てを採択し、補助額の合計は454万5,000円という結果であった。

市では、地域協議会の審査結果に基づき、5月25日付けで提案団体に採択結果を通知し、併せて、補助金の交付申請書の提出を依頼した。その後、6月10日までに6事業全ての交付申請に対して市の交付決定が完了している。

現在、提案書の内容に沿って事業実施中、または、今後着手する予定となっている。

【藤田会長】

今ほどの説明について、意見や質問があればお願いします。

特に意見がなければ、「3 協議」に入る。「(1) 令和4年度活動計画について」、4月25日の第1回地域協議会で各項目について意見をいただいた。また、この間に実施した内容も含めて資料2のように整理したため、皆さんからご確認いただきたい。

始めに、「1 自主的審議」について、Aグループ、Bグループそれぞれのグループワークについて、4月の地域協議会以降の取組を記載している。各グループのこの間の取組について、報告をお願いしたい。Aグループからお願いします。

【池田副会長】

Aグループについては、この場で何度か報告しているとおり、うらがわらスポーツクラブ、浦川原区町内会長連絡協議会、浦川原商工会の3団体に対して課題の聞き取り調査を実施する。このうち、うらがわらスポーツクラブからは、要望として意見をいただいております、今後、他の団体に対しても進めていく予定である。商工会については、7月27日に理事会があり、

その場で少しお時間をいただき、話をまとめていただくよう要請する。また、並行して、町内会長連絡協議会にも打診していきたい。その後、資料がまとまってから、各団体に集まっていたいただき、聞き取り調査を実施していきたいと考えている。これは8月以降になると思われる。

【藤田会長】

今ほどの説明について、意見や質問があればお願いします。

意見がなければ、続いて、Bグループについて、私から説明させていただく。

中山間地域における公共交通の在り方ということで、ほくほく線については、北越急行の小池社長からお越しいただき、3月11日に公開で講演会を開催した。率直な感想として、北越急行は赤字が続いているということを皆さんも承知されているところであるが、新幹線が開通し今までの稼ぎ頭であった特急はくたかが廃止され、130億円あった内部留保が100億円を切ったという状況がある中で、我々としても微力ながら、緊急性を要する支援や協力をしていかななくてはならないと思っていた。しかし、小池社長からは「心配いらない。」「スピードを落とし、車両等の寿命を延ばして経費節減に努める。」といった話があり、少し肩透かしを食った気もするが、我々に心配をかけないようにとの思いの中、一つ一つ積み重ねていくという意味として解釈したいと考えている。

また、市交通政策課からは、浦川原区の公共交通の状況のほか、市の施策等についてお話いただいた。区内のデマンドバスは、月影地区の1路線のみの運行となり、他の3路線は廃止となった。しかし、移動手段を必要とする方が1人でもいれば、その方をフォローしなくてはならないという思いがある。

今後、この2つのテーマをどうしていくかについては、たたき台となる試案を私の方で作成し、その案について意見をいただきたいという話を、Bグループの皆さんにしたところである。現在、いろいろ考えている段階であり、ある程度まとまったところで、事務局からも協力いただいて完成させ、7月・8月で2回ほど議論していきたい。委員の皆さんは大変かもしれないが、できれば9月の予算編成までに間に合わせるようにしていきたいと思っている。私のリーダーとしての責任において作成していきたいと思っているので、もう少し猶予をいただきたい。

大浦安の小学校の在り方についての意見も出ていたが、委員の中には、お子さんやお孫さんが関係している方もおられるので、今後、検討していく中で、統合を早めていただきたいという方向で、協議できたらと思っている。

今ほどの説明について、意見や質問があればお願いします。

意見がなければ、続いて、「2 地域活性化の方向性の作成」について、前回の地域協議会において、市から依頼があった。作成する方向で項目として記載しているが、今後の進め方については、自主的審議との関連もあるので、次の協議事項で協議していきたいと思っている。

続いて、「3 地域活動支援事業の審査等」については、3月中旬に成果報告会を開催するというので、委員の皆さんはご承知おきいただきたい。

続いて、「4 出張地域協議会」について、当初、上猪子田もしくは小谷島の集会所を会場に開催を考えていたところであるが、集会所の広さの点から、開催できないという返事が来た旨を事務局から聞いている。このため、中猪子田町内会において、9月か10月に開催できるよう調整していきたいと思っている。中猪子田での開催として進めてよいか。

(会場内から「はい」の声)

続いて、「5 中学生との意見交換会」については、今までどおり進めていただけるということで、村松副会長からコメントがあれば願います。

【村松副会長】

中学生との意見交換会については、資料に記載のとおり、浦川原区の魅力を深掘りしていく。今年度も、令和3年度と同じ実行委員での体制とし、今回は早い時期に皆さんから集まっていたいただき、いろいろ回った後に深掘りできるようにしていきたいと思っている。中学校へは、教育・文化グループから伝えていただきたい。

【藤田会長】

今ほどの説明について、意見や質問があれば願います。

【北澤正彦委員】

現在、令和6年度の中学校統合に向けて話が進んでいる最中であり、また、委員の任期も来年度までと残り少なくなっている状況を踏まえて、今後の中学生との意見交換会を考えていかなければならないのではないかと。

今後も中学1年生を対象とするのかについては、次の委員が考えることだと思うが、今まで続けて来た中で、どこかで転換を図っていかなければならないのではないかと感じている。また、学校統合後に、当区の地域協議会だけで動くわけにもいかないと思う。来年度で、この意見交換会を終了させることも一つだと思うが、何か違う形で中学生と関わることを地域協議会として模索していても良いのではないかと感じている。

【藤田会長】

意見として承り、今後の議題として話し合っていければと考える。

続いて、「6 研修会の開催」について、大浦安の研修会は、10月から11月に開催予定となっている。今回の担当は安塚区地域協議会である。

また、当区地域協議会の研修会について、正副会長案として検討しているのは、地域自治推進プロジェクトをテーマにして、自治・地域振興課の職員を講師に招いて、秋頃に研修会を開催し、当区として考えていることを直接担当課に問いかけていくことも良いのではないかと考えている。この件について、意見や質問があればお願いします。

意見がないようであれば、地域自治推進プロジェクトについて、自治・地域振興課の職員に来ていただいて、内容について認識を深めていくということによいか。

(会場内から「はい」の声)

それでは、そのように進めていきたいと思うので、事務局の協力をお願いします。

最後に「7 地域協議会だよりの発行」について、次回の発行は1班の担当となっており、私と春日委員、北澤正彦委員、五井野委員の4人で進めていくこととなっている。7月19日の締切りに向けて準備していきたい。

以上となるが、全体を通して、皆さんから意見等はないか。

意見がなければ、「(2) 自主的審議事項の検討について」、前回の地域協議会で、①「地域を元気にするために必要な提案事業(元気事業)の提案」や「意見書の提出」、「地域内での課題解決」に向けて、自主的審議による議論を進めていくこと、②「地域活性化の方向性の作成」に着手することの2つについて、市から要請があった。

現在、自主的審議事項の検討に向けてグループワークを進めているが、令和5年度に予算を必要とする事業の提案や、意見書の提出に取り組むかどうかについて、審議していきたい。

令和5年度に予算が必要な場合は、9月までに進めていかなければならない。Aグループとしてはどのようにまとめていくのか。

【池田副会長】

Aグループとしては、来年度予算に反映できるように、9月末までにまとめる方向で考えていきたい。

【藤田会長】

Bグループにおいても、先ほど申し上げたように、7月・8月にまとめていく中で、来年度予算に乗せるかどうかも含めて、考えていきたいと思っている。

次第では、協議となっているが、両グループとも具体的な案は持ち合わせていないため、現在までの報告とさせていただく。

次に「4 その他」として、「出張なんでも懇談会の開催について」、大橋次長から説明

をお願いします。

【大橋次長】

(資料3に沿って説明)

続いて、資料は無いが、6月25日発行の広報上越7月号に「市民と市長との対話集会」の開催について掲載している。これは、中学校区単位で開催しているもので、浦川原中学校区では、8月23日火曜日に開催する。申込制となっており、申込期間は7月22日から8月8日までとなっている。詳しくは広報上越7月号をご覧ください。また、防災行政無線でもお知らせする予定である。

このほか、当日配付資料として、主要事業・プロジェクトの概要と男女共同参画推進センターからのチラシを配付させていただいたので、後ほどお読みいただきたい。

【藤田会長】

「市民と市長との対話集会」の申込みについて、様式などはあるのか。

【大橋次長】

申込みは総合事務所へ電話していただければよい。

【藤田会長】

個人でも団体でもよいのか。

【大橋次長】

どちらでも可能である。ただし、1会場につき20人程度の予定としている。

【藤田会長】

8月23日の何時から実施されるのか。

【大橋次長】

午後6時30分から8時までの予定で、会場は浦川原地区公民館である。

【藤田会長】

非公開での開催となるのか。

【大橋次長】

公開で開催する。

【藤田会長】

了解した。

次に、「5 次回の会議日程」について、次回は7月26日火曜日、午後6時30分から浦川原コミュニティプラザで行う。

ほかに、皆さんから何かあれば発言をお願いします。

【佐藤所長】

先ほどAグループ、Bグループ共に来年度の予算編成に間に合わせるために、9月までにまとめるという報告があった。藤田会長からは、「Bグループとして7月と8月に2回の会議を開催する」というお話があった。皆さんが集まっている今のタイミングで、開催の日程を決めていただいた方が、参加率が高くなるのではないかと考えるがいかがか。

【藤田会長】

それでは、Bグループの日程について、初回は7月11日月曜日、午後6時30分からでいかがか。

(会場内から「はい」の声)

その次は、7月25日月曜日、午後6時30分からでお願いしたい。

事務局はいかがか。

【総務・地域振興グループ北澤班長】

会場については、部屋の空き状況を確認し、文書でご案内させていただく。

【佐藤所長】

7月11日に藤田会長から交通施策の私案をお示しいただけるということでよいか。

【藤田会長】

そうである。ただ、表や図の作成において、事務局からも協力していただきたいと思っている。

【佐藤所長】

了解した。早めに提示いただければありがたい。

また、Aグループは、7月27日の商工会の理事会後、8月以降に団体から話を聞くというお話であったが、団体の皆さんの意見を聞いてから、何に予算を付けるのかというところまでもっていくには、相当な回数の会議を行わなければならないのではないかと考える。我々としても、具体的に何をするのかということを決めていただかないと、予算を組むことができない。7月27日以降ということであれば、9月まで実質2か月ほどしかなく、非常にタイトな日程となることが予想されるため、早めにご検討をお願いします。

【池田副会長】

頑張っていく。

【藤田会長】

それでは、これで第3回浦川原区地域協議会を閉会する。

9 問合せ先

浦川原区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 025-599-2301 (内線 305)

E-mail : uragawara-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も合わせてご覧ください。